

平成30年度
「地域とともにある学校づくり」
推進フォーラム
(和歌山会場)

コミュニティ・スクールの実践

平成30年8月23日

山口県立周防大島高等学校

校長 村上哲朗

教諭 河田久美

山口県立周防大島高等学校の概要

- **平成19年開校** 安下庄高校と久賀高校を再編
- **二校舎制**…安下庄校舎～久賀校舎間の距離11.4Km
 - ・ **安下庄校舎**…12学級、生徒数1年66名、2年82名、3年74名 計**222名**
普通科(特別進学、普通、環境の3コース、**学年定員70名**)
地域創生科(福祉、ビジネスの2コース、**学年定員35名**)
 - ・ **久賀校舎**…生徒数1年5名、2年9名 計14名
福祉専攻科(高卒程度対象、2年制、定員20名程度)…平成28年4月設置
- **校 訓**「至誠一貫」「自主自立」「友愛協働」
- **学校教育目標**
「燦として輝き、熱誠こめて社会の力となる人材の育成
～他者とのつながりの中で磨く、総合的な人間力～」
- **沿 革 (抜粋)**
 - 平成21年** 島内4中学校と**連携型中高一貫教育**開始
 - 平成26年** **全国募集**を開始
 - 平成26年** **普通科再編**し、2学科 5コース(全国唯一の**地域創生科**)
 - 平成28年** 山口県立高校初の**コミュニティ・スクール**として県が指定

周防大島高校への導入の目的

目的

地域や学校の課題解決を一層進め、
将来の地域を支える人材を育成する

背景

- ◇人口減少等の課題を抱える周防大島町
- ◇周防大島町唯一の県立高校
- ◇以前から地域との連携を進めてきていた
- ◇町内小中学校100%コミュニティ・スクール
⇒県が本校をコミュニティ・スクールに指定

(H28.4)

地域の課題

導入の背景

1 人口減少をどう止めるか

10月1日比較

10月1日比較	平成29年	平成22年	増減数	増減率
山口県	1,381,584人	1,451,338人	▲69,754人	▲4.8%
周防大島町	16,316人	19,084人	▲2,768人	▲14.5%

2 子どもと生産年齢層の減少をどう止めるか

平成29年10月1日	0-14歳	15-64歳	65歳以上
山口県	11.9%	54.6%	33.5%
周防大島町	6.6%	40.4%	53.0%

3 空き家・空き店舗、荒廃したミカン園や畑、山林 等

4 地域コミュニティの維持、文化の維持・継承 等

5 その他

学校の課題

1 生徒募集

少子化と人口減少の中で入学生をどう確保するか

2 キャリア意識をどう高めるか

3 自己肯定感をどう高めるか

4 地域への愛着や地域肯定感をどう高めるか

5 その他

急激な社会の変化に対応できる力をどう育成するか

周防大島高校における コミュニティ・スクールのコンセプト

**地域から愛され信頼される高校となる！
小学生・中学生のあこがれの高校となる！**



**周防大島高校に進学
学力や人間力を磨き、地域への愛着を育み**



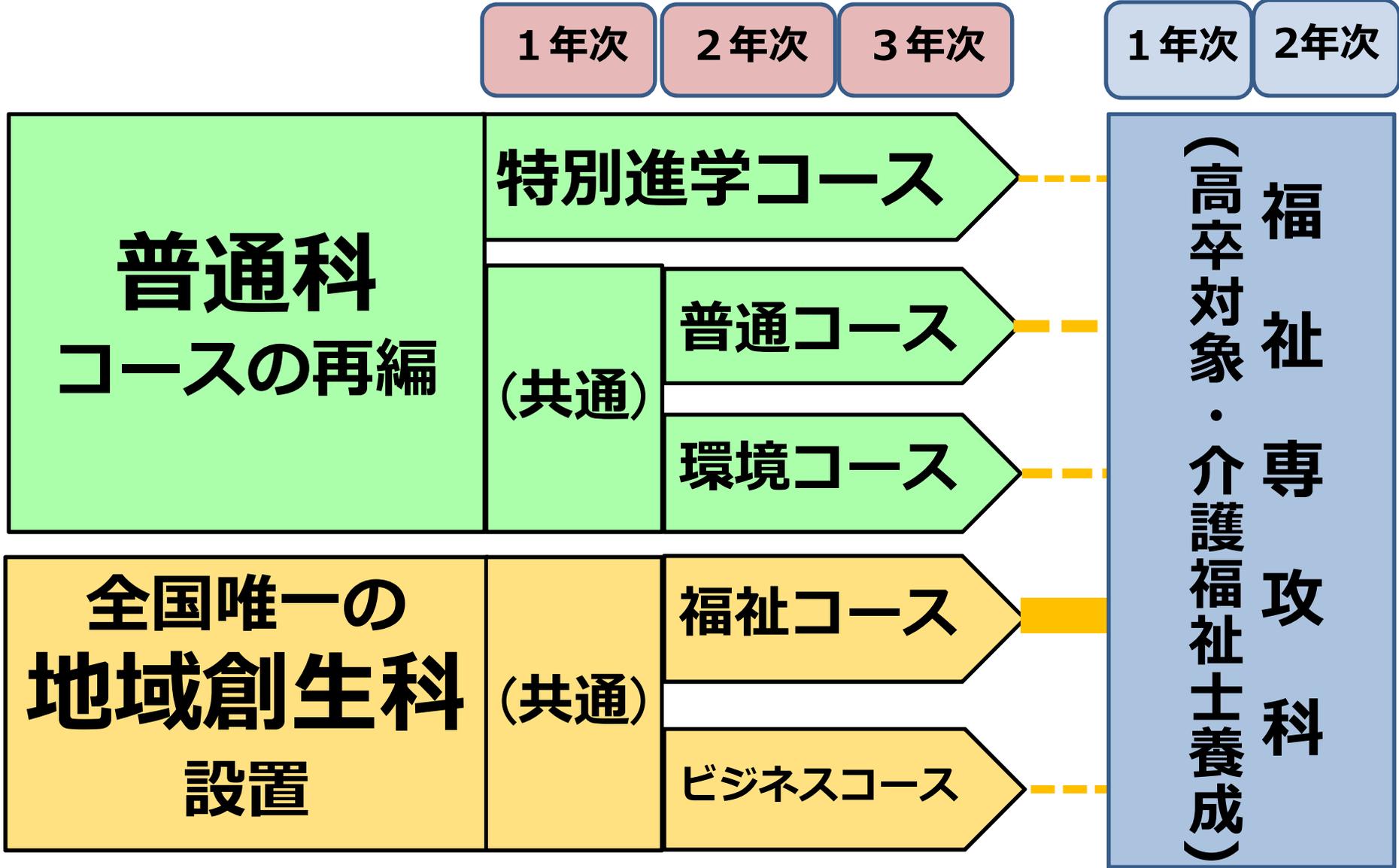
- ★地域に残る人
- ★外で経験を積んで帰ってくる人(還流人材)
- ★外から地域を応援する人(サポーター)

周防大島高校の3つのチャレンジ

- ① **希望進路を叶える学校**
⇒ **2学科5コース**
- ② **他の高校では学べないことが学べる学校**
⇒ **地域と連携した教育活動を通して
故郷への誇りと未来を拓く力を育成**
- ③ **イキイキ・ワクワクした青春時代を過ごせる学校**
⇒ **学校行事や部活動等の充実**

周防大島高校のチャレンジ①

導入の背景



周防大島高校のチャレンジ②

導入の背景

他の高校では学べないことが学べる
⇒ 地域と連携した教育活動を充実

島じゅうキャンパスで

島・学・人プロジェクト

- 島が学びの現場-フィールドワーク
- 島の魅力・良さを調査・発信
- 島の課題を知り、解決のアイデア
- 創造と社会に役立つ喜びと達成感



島・学・人プロジェクト

導入の背景

1年次

社会人基礎

2年次

3年次

「総合的な学習の時間」

- ・ 学校での学習
- ・ 海の市での実践

学校独自教科「地域創生」

地域創生Ⅰ
環境科学Ⅰ
フィールドワークⅠ

地域創生Ⅱ
環境科学Ⅱ
フィールドワークⅡ

1年生 「総合的な学習の時間」

2-3年生 教科「地域創生」

など、

地域と協働した取組を**時間割に明確に位置づけて**

学校を挙げて、地域の活性化に取り組み
故郷への誇りと未来を拓く力を高める

**目的：地域や学校の課題解決を一層進め、
将来の地域を支える人材を育成する**

地域と学校の活性化を図り、
故郷への誇りと未来を拓く力を育成し、
生徒の希望進路を叶えるためには、

地域と連携した教育活動が効果的では？

地域と連携した教育活動を**持続できる仕掛け**は？

**コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)
の仕組みが有効では？**

導入の経緯

周防大島高校学校運営協議会の設置まで

平成12年～

学校評議員制度

平成24年～

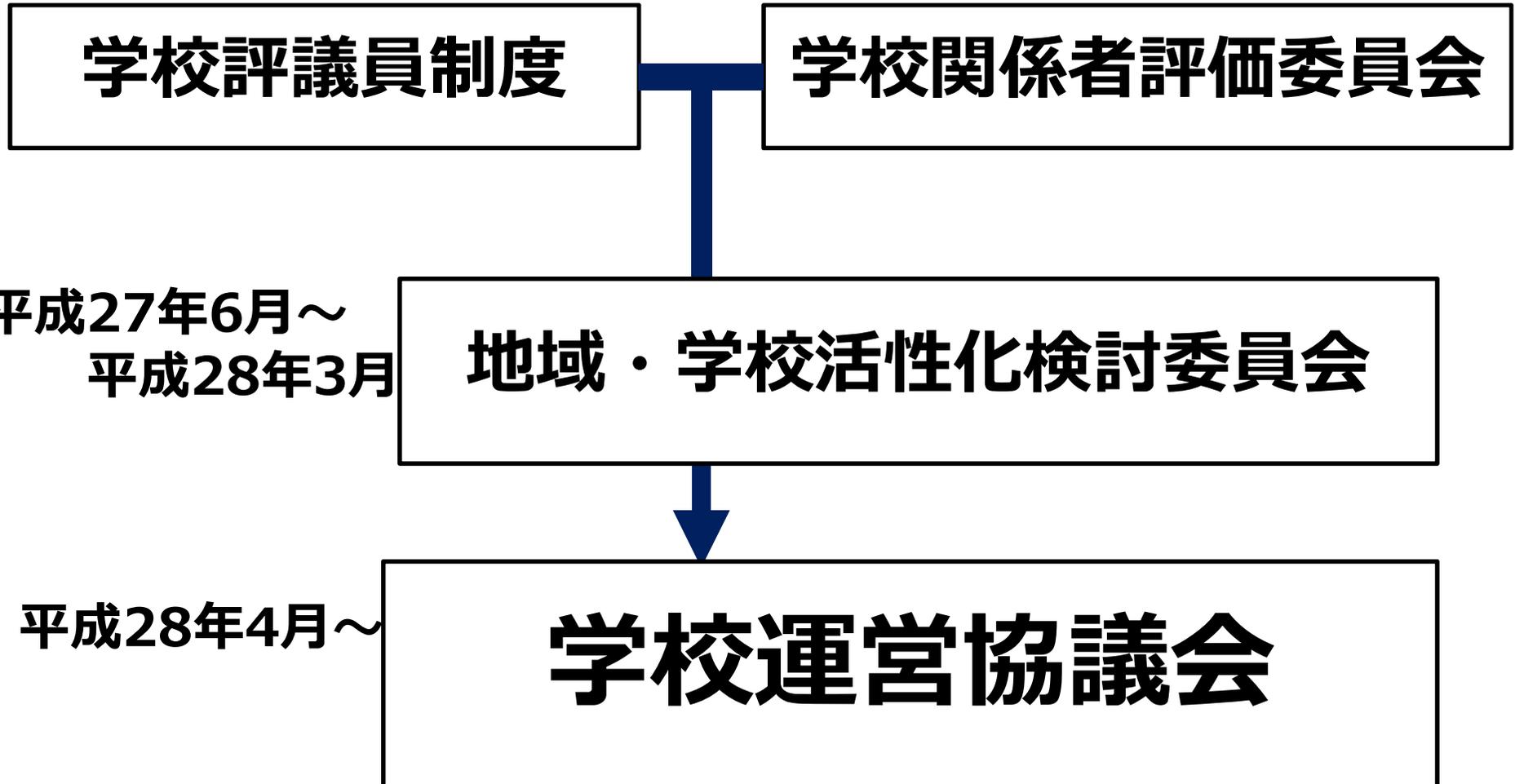
学校関係者評価委員会

平成27年6月～
平成28年3月

地域・学校活性化検討委員会

平成28年4月～

学校運営協議会



地域・学校活性化検討委員会での準備 導入の経緯

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正



学校運営協議会の設置等に関する規則(県教委平成27年12月施行)



学校運営協議会の運営に関する要綱(県教委平成28年1月施行)



周防大島高等学校学校運営協議会会則(本校平成28年6月施行)

[協議会が定める事項] (会則第2条)

- ・ 学校が提案する学校運営改善方策、地域の学校支援の在り方、学校の地域貢献の在り方に関すること
- ・ 周防大島の活性化に向けて、本校に期待すること、本校ができること
- ・ 10年後の本校の姿を描くビジョンの作成に関すること

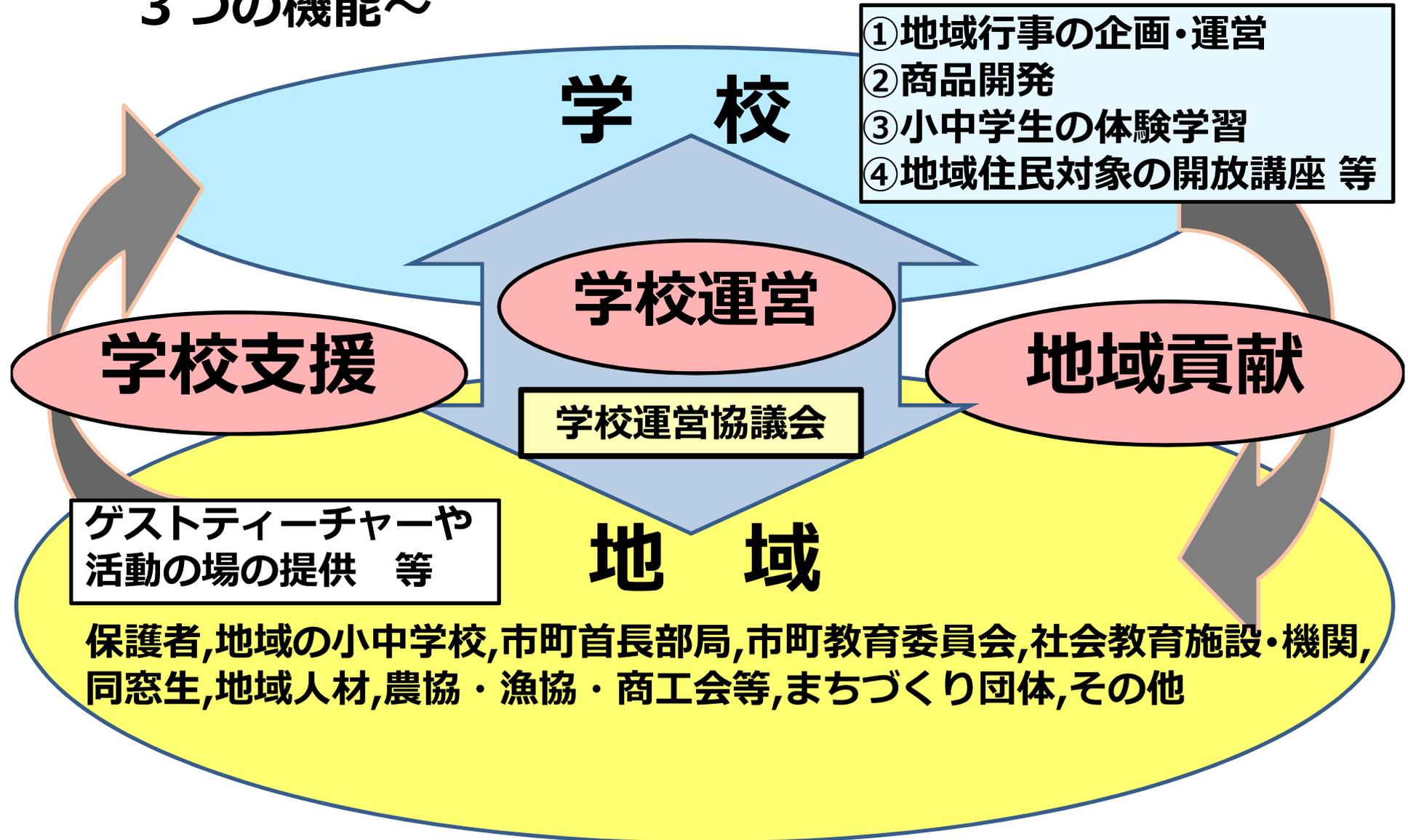
[特別委員] (会則3条)

- 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を特別委員として会議に出席させ、その意見を求めることができる(議決権はもたない)

コミュニティ・スクールの機能

導入の経緯

～やまぐち県が考えるコミュニティ・スクールの
3つの機能～



周防大島高校の人的資源と組織化

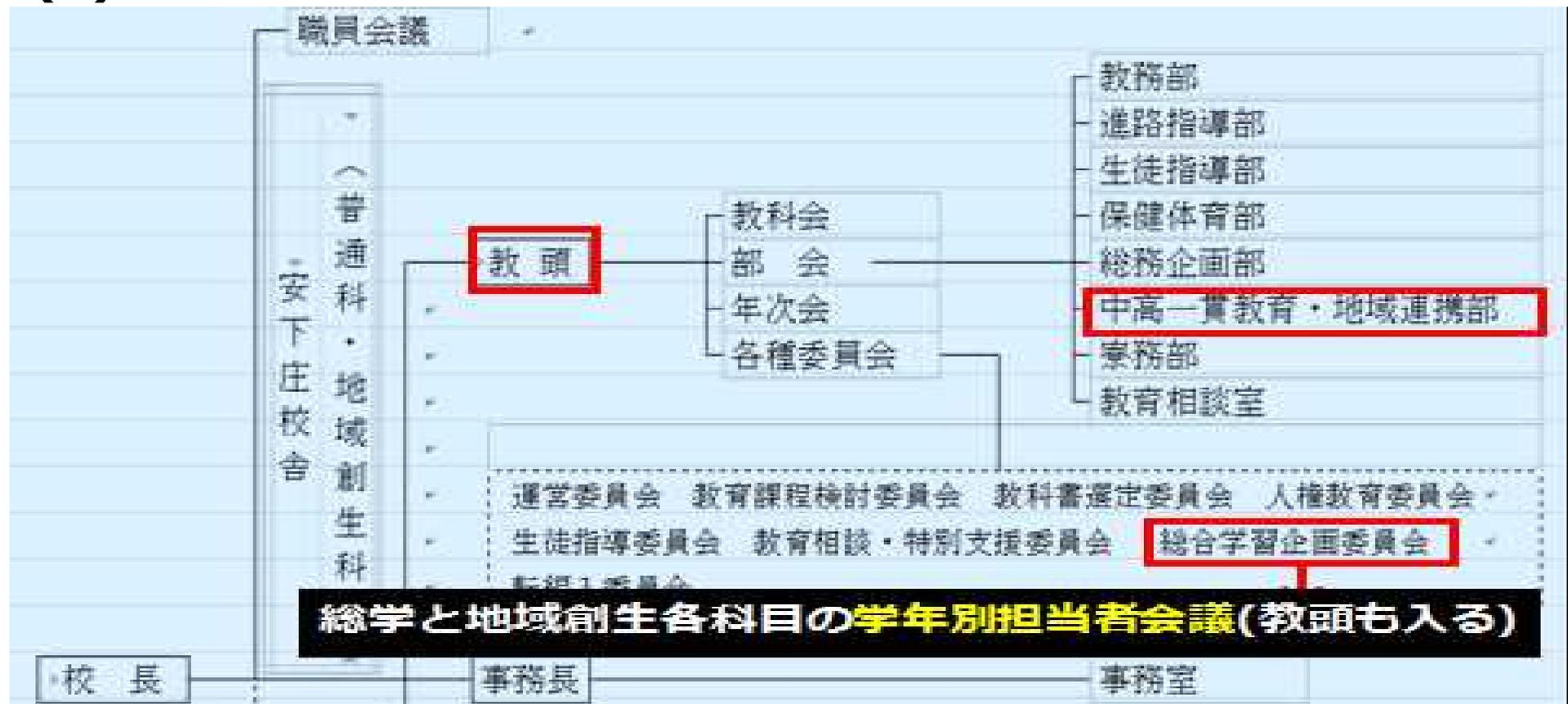
導入の経緯

(1) 教職員

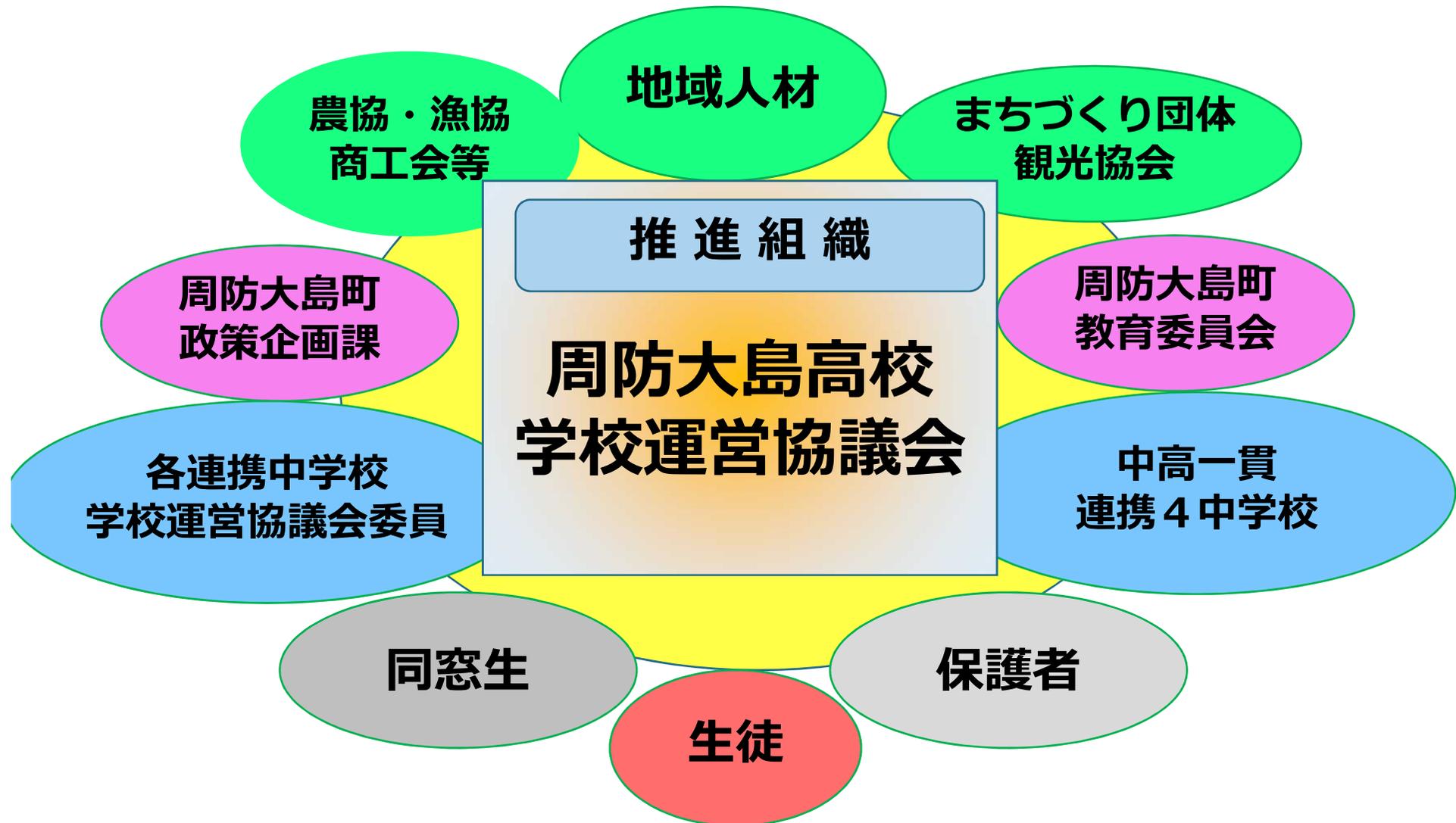
() は両校舎兼務者 (内数)

校長	事務長	校舎	教頭	教諭	養教諭	講師	非常勤講師	実習教員	外国語指導助手	事務職員	校務技士	校舎計	SC	舎監補助員	栄養士	合計
1	1	安下庄	1	35(1)	1	1	10(1)	2	1	5	1	57(2)	1	3	1	73
		久賀	1	4(1)	1	0	1(1)	1	0	2	1	11(2)				

(2) 校内組織



(3) 周防大島高校の学校運営協議会を構成する人的資源



学校運営協議会の委員構成の考え方

導入の経緯

学校
運営

協議会委員は学校長を含む15名

- ◆**首長部局**(町総務部 政策企画課長)
- ◆**教育委員会**(町教委 学校教育課指導主事)
- ◆**地域人材**(JAやまぐち大島代表理事、
県漁協安下庄支店長、商工会会長、民生委員、
町観光協会事務局長、福祉施設園長)
- ◆**連携中学校**(各中学校運営協議会委員、中学校長会長)
- ◆**学校関係**(PTA会長、校長)

<考え方等>

- ※①**地域特性**を考慮：1町1高校、地域連携型中高一貫教育、小・中学校100%コミュニティ・スクールを意識し、首長部局、町教委、各中学校の学校運営協議会委員を入れた構成としている。
- ※②**地域と連携した教育活動を展開**するため：地域人材を委員に
- ※③**学校**の特性：福祉、ビジネスのコースがあるので関係の方を委員に
- ※④**特別委員**：意見表明はできるが議決権はない特別委員として
山口県コミュニティ・スクール推進協議会委員、及び生徒代表
- ※⑤**教職員**：教頭、事務長、CS担当教員、出席希望教員

学校運営協議会の主な議題

HP公開

学校
運営

- 教育課程の編成・学校経営計画・組織編成・運営の状況についての評価等について
- 綱紀保持に係る研修等について
- 学校評価における学校関係者評価について
- 公募型人事異動制度における「学校が求める教職員」について
- 周防大島高校の将来構想の策定について
 - 周防大島高等学校学校教育目標の策定について
 - 周防大島高等学校将来構想グランドデザインについて
 - 周防大島高校の魅力を生む取組(熟議)
- 生徒募集の内容及び方法について(熟議)

学校運営協議会の主な成果

学校
運営

協議の成果

- **新学校教育目標の策定(H29年4月)**
燦として輝き、熱誠こめて社会の力となる人材の育成
～他者とのつながりの中で磨く、総合的な人間力～
- **周防大島高等学校**
将来構想ランドデザインの
策定(H30年4月) →
- **業務改善**
学校評価書の重点化 等
- **教育活動への支援の広がり**
場や機会の提供、講師等
…つながりがつながりをよぶ



観光協会等とのつながりによる教育活動

学校
支援

1 年次生における総合的な学習の時間

★都会からのIターンの起業家による講話の実現

◆観光協会副会長 瀬戸内ジャムズガーデン 松嶋匡史 様

- 見過ごされてきた地域の資源や人とのつながりを大切にする
- 田舎でしかできない事業を行うこと、この土地でしかできないジャム作り
- 「巻き込み力」が大切

◆観光協会 KASAHARA HONEY 笠原隆史様

- 共感を売る
- つながりこそが大切
- チャレンジのない地域に未来はない



※身近な人の話⇒生徒は「自分でもできるかもしれない！」

※Iターンの方からだからこそ、島の良さとチャンスが学べる

観光協会や町等とのつながりによる教育活動

学校
支援



地域
貢献

普通科特進コース「総合的な学習の時間」の取組の実現

◆EIGOで地域へGO!～英語を使った地域貢献活動～

- 英語力の向上を目標に、英語を使った地域貢献活動に取り組んだ。
小学校への高校生出前授業、観光ガイドブックの翻訳、
外国人向けの島内体験ツアーの企画と実践 等
 - 様々な取組のなかで、自然に英語を話したり、書いたりする機会
が増えたことで、英語に対する抵抗感が薄れ、英語の学習に積極
的になる生徒が増えた。
 - 島外からALTを招いての島内体験ツアーでの交流のなかで、学ん
だ英語を使って相手と意思疎通ができた際には、達成感を持たせ
ることもできた。
- ⇒ 本取組の結果、特別進学コースの生徒も無理なく、**地域貢献に取
り組むことができ、ほとんどの生徒の英語に対する意識が向上し、
全国模試等の英語の偏差値の上昇**につながったと考えている。

コミュニティ・スクールの成果と課題について

(1)成果…学校運営協議会での情報共有や協議を通して、学校や生徒に対する地域の方々の理解が深まり、学校への支援体制が強化されたことから

- ①**生徒の成長**…地域と連携した様々な体験活動や地域貢献活動により
 - ・キャリア意識、社会性、コミュニケーション能力、企画・運営力の向上
 - ・自分にもできるという達成感、自己肯定感、地域肯定感の向上
 - ・内閣府主催地方創生政策アイデアコンテスト等での上位入賞
- ②**教職員の能力向上**…専門の教科以外の学校設定科目を担当することにより
 - ・交渉力・調整力の向上、視野・教養の広がり、専門性の向上 等
- ③**地域とのネットワークの広がり**…つながりがつながりを呼ぶことにより
 - ・実習先の確保、ボランティア要請、ゲストティーチャー等の人材の確保等
- ④**地域との連携を教育課程に位置付け**
 - ・「島・学・人プロジェクト」としてカリキュラムに明確に位置づけられた
- ⑤**地域の活性化・人材育成に貢献**
 - ・安下庄「海の手」の発展、文化の維持・振興、地域の方も元気に、学校が地域のコミュニティとコミュニティをつなぐ 等
- ⑥**その他**…生徒募集におけるPRする力の強化 等

コミュニティ・スクールの成果と課題について

(2) 課題…持続可能な取組とし、更なる充実を図るために

①教職員の多忙化の解消

- ・「多忙だけど、多忙感はない」とはいうものの、新たな業務が入ったことに変わりはなく、教職員のモチベーション維持のためのマネジメントも必要
- …取組の価値づけ・意味づけ、コンテスト等での入賞など成果の見える化
- …業務時間の軽減の工夫、ビルド・アンド・スクラップ

②ゲストティーチャーの開拓やプログラム開発… 3年間必要

- ・周防大島高校学校支援人材バンク
- ・地域・生徒のニーズや課題の情報収集と把握⇒プログラムの創造

③教育的効果の更なる向上

- ・取組の目的の明確化と生徒のモチベーション維持
- ・費用対効果の検証

④学校と地域との双方向の得の追求…学校支援と地域貢献

- ・教育的効果、生徒募集 等
- ・地域の活性化、文化継承、コミュニティの維持 等

